

長定例記者会見（令和4年4月12日）録

11時30分～12時05分

まず題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の状況に関しまして、一言申し上げたいと存じます。

香川県に適用されておりました「まん延防止等重点措置」が、先月21日をもって解除されてから、約3週間が経過いたしました。

本市の新規感染者数は、まん延防止等重点措置の解除後、緩やかな減少傾向が見られているものの、検査数が少なくなる日曜日や祝日を除くと、1日当たり150から160人程度と、概ね、横ばいで推移する中で、ここ数日は、若干、増加傾向が見られる状況でございます。

また、年代別の直近1週間の累積新規感染者数は、10歳代以下の感染者が多い傾向でございましたが、3月中旬ごろをピークに、それ以降、減少傾向となっており、特に、10歳未満の子どもへの感染は大幅な減少に転じております。

しかしながら、この数日は、全ての年代において、横ばいか、むしろ増加傾向が見られております。さらに、今の時期は、進学や就職などで、人の移動も増加しております。加えて、今後の置き換わりが懸念されるオミクロン株の派生型（BA・2）の確認例も増えており、ややもすると感染が再拡大する恐れもございます。

特に、オミクロン株の非常に強い感染力から、今なお、高齢者施設などでの感染も断続的に発生している状況でございます。

このようなことから、先日、御報告させていただいておりますが、この度、県と連携して、高齢者・障がい者施設等におけるクラスター防止対策といたしまして、希望する施設に対し、感染者が発生する前に、施設職員向けに飛沫感染防止用のゴーグルを配布いたしますとともに、抗原検査キットを配布することとい

たしまして、現在、補正予算の専決処分の準備を進めているところでございます。なお、実施時期など、詳細につきましては、決まり次第、御報告させていただきます。

いずれにいたしましても、市民の皆様におかれましては、家庭内においても、基本的な感染対策を更に徹底していただくとともに、接触機会の低減のための、会食時の人数制限など、感染防止対策の徹底を、よろしく願いいたします。

それでは、題材に入らせていただきます。本日は3点ございます。

1点目は、「新型コロナワクチンの接種率向上に向けた今後の取組について」でございます。

まず、最初に、本市における3回目のコロナワクチンの接種状況でございます。

4月7日（木）時点におきまして、3回目接種を終えた方は、約16万9千人で、接種率は、約40%でございます。このうち、65歳以上の高齢者は、約9万8千人で、接種率は、約82%となっております。

ワクチン接種記録システム（VRS）への反映に、一定程度の時間を要することを考えますと、本市の接種率は、概ね、全国平均（44.2%）並みであるものと存じます。また、傾向といたしましても、同様に、20歳代から40歳代までの接種率が低迷している状況でございます。

その要因といたしましては、若いほど接種が遅かった人が多く、2回目接種から6か月を経過していない人がいることのほか、職域接種の遅れやワクチン接種による副反応等への懸念、感染による重症化率が低いことなどから、接種をためらっている人が多いのではないかと考えております。

今は年度初めということもあり、人が動き、人が集まる機会が多い時期でござ

います。また、今月14日から「瀬戸内国際芸術祭2022」が開催されます。さらに、今月末からは、大型連休を迎えますことから、県境をまたぐ人の移動も増加することが見込まれます。

現在、国においても、若者世代を対象とした接種率の向上が検討されているところでございますが、このような状況を踏まえ、本市におきましても、特に、20歳代などの若者をターゲットに、今月、4月末から5月にかけて、接種率向上のため、3つの集中取組を行うことといたしました。

まず、1つ目は、ファイザー社製ワクチンによる集団接種の追加実施でございます。すでに、5月1日までの集団接種の日程等につきましては、公表しているところでございますが、12歳から20歳代の若者を対象に、4月23日から5月1日までの土・日・祝日の延べ5日間、武田/モデルナ社製ワクチンの予約の空き枠を活用して、ファイザー社製ワクチンによる追加の集団接種を、市役所13階大会議室などで実施いたします。

2つ目は、ファイザー社製ワクチンによる集中集団接種の実施でございます。

対象は、12歳以上の方で、1・2回目及び3回目の全ての接種機会を希望する人で、5月3日と4日の2日間、集団接種を市役所13階大会議室で実施いたします。

最後に、3つ目は、武田/モデルナ社製ワクチンによる予約なし集団接種の実施でございます。4月から5月にかけて、2回目接種から6か月を経過する方が58,000人ほど見込まれますことから、その方々の接種を促すため、5月5日から延べ5日間、予約なしでの集団接種を、市役所13階大会議室で実施します。

なお、接種に際しましては、3回目接種の接種券や、健康保険証などの本人確認書類が必要となります。

これら集団接種の予約は、「ファイザー社製ワクチンによる追加集団接種」につきましては、4月15日（金）から、また、「ファイザー社製ワクチンによる集中集団接種」につきましては、4月25日（月）から、いずれも午前9時から、本市のオンライン予約サイトや、コールセンターで受け付けを開始いたします。

最後になりますが、本市といたしましては、2回目接種を終えられた多くの方が6か月を経過する、本年5月末までを目途に、希望する全ての方の接種を終えることができるよう、取り組んでいるところでございます。

多くの方に少しでも早く接種していただくことが、感染収束への近道であるものと存じます。

市民の皆様におかれましては、是非とも、積極的な接種について御検討いただきますとともに、今回の集中取組による、この機会を、ぜひ御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

2点目は、地球温暖化対策実行計画の一部改定等についてでございます。

国においては、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す、カーボンニュートラルの実現や、2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度から46%削減する新たな目標の達成に向け、再生可能エネルギーの最大限の導入などに取り組むこととしており、脱炭素社会の実現に向けた動きが加速しているところでございます。

本市でも、令和2年12月に、ゼロカーボンシティ宣言を行い、市民や事業者の皆様とともに、ゼロカーボンシティの実現を目指し、取り組んでいるところでございますが、この度、取組を一層、推進していくため、再生可能エネルギーの導入に向けた基本的な考え方を取りまとめた「高松市地域再エネ導入戦略」を策定いたしました。

この戦略では、再生可能エネルギー導入に向けた本市の課題や解決の方向性

などを踏まえ、「本市の豊富な日照量を生かした太陽エネルギーの導入」や、「市民や事業者など、多様な主体が連携した再生可能エネルギー導入の仕組みづくり」を基本方針に、「エネルギーマネジメントを通じた持続可能なまちづくり」の将来像を描き、ゼロカーボンシティの実現に向けて検討すべき取組を整理いたしました。

また、地球温暖化対策をめぐる情勢の変化に対応するため、この再エネ戦略も踏まえ、「高松市地球温暖化対策実行計画」の一部を見直したところでございます。

ポイントとしては、温室効果ガスの排出量を2030年度に2013年度と比べ30%削減とする目標を、46%に引き上げたほか、「省エネルギーの推進」や「再生可能エネルギー等の拡充」など、4つの基本施策について、ゼロカーボンシティの実現を目指し、2030年までに取り組む必要がある取組を追加しております。

また、温室効果ガス排出量の抑制を図る「緩和策」を見直したほか、気候変動の影響に対して、被害を回避・軽減する「適応策」を新たに設定するとともに、市有施設の率先した脱炭素化など、「市役所の率先行動」を、新たな取組として盛り込んでおります。

市民や事業者の皆様には、改めてゼロカーボンシティの実現に向けた、一層の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

3点目は、「中小企業等デジタルビジネス推進支援事業について」でございます。

2つございまして、1つ目は、株式会社STNetとの「市内中小企業とのデジタル化の推進等に関する協定」締結でございます。

これは、本市とSTNetが相互に連携し、中小企業のニーズ把握や、デジタル化に関する相談対応などのサポートを行い、中小企業におけるデジタル化の

導入を支援してまいりますとともに、首都圏などの情報通信関連企業等の誘致の推進に関する取組を実施するものでございます。

これによりまして、デジタル化の重要性は認識しつつも、踏み出せないでいる市内中小企業の、デジタル化を促進し、生産性の向上や経営課題の解決を図ってまいりたいと存じます。

協定締結式は、4月26日（火）午後3時30分から、瓦町フラッグ6階にSTNetが開設しております「SoCoラボ」で行うこととしております。

2つ目は、「高松市中小企業等デジタルビジネス推進事業補助制度の創設」でございます。

この補助制度は、市内の中小IT企業等が、市内外の企業や大学などとコンソーシアムを組織し、デジタル技術を活用して、様々な産業分野が抱える課題の解決のほか、新たな市場創出につながる先進的な新サービスや新製品の開発を支援するものでございます。

補助率は、事業費の2分の1、補助限度額を300万円としております。なお、今年度は、3件程度の取組を支援する予定でございます。

申請受付は、来月、5月2日（月）から6月24日までの期間で、補助対象となるのは、使用料や委託費など、事業実施に係る経費の一部でございます。

事業内容の詳細や申請方法等につきましては、今後、ホームページにて公開することとしております。

本市といたしましては、この補助制度を契機といたしまして、デジタル技術を活用して、新たなビジネスモデルの構築に期待しているところでございます。

【質問】

【記者】

サンポート高松のB2街区で世界的な外資系ホテルを誘致するプランが活用策として決定したがその所感は。

【市長】

この度のB2街区の活用策につきましては、サンポート地区の賑わいを創出し、都市の魅力向上に資する提案内容であり、私といたしましても、大変、喜ばしく、本市の都市ブランドの向上と、四国の中枢管理都市として機能強化につながり、本市の活性化に資するものと、大きな期待をしているところでございます。

サンポート地区は、高松港やJR、ことでんなど、海と陸の交通結節拠点として、また、ウォーターフロントという優れた立地環境を生かし、産業、業務、官公庁などを集積する重要な都市拠点の形成が図られております。さらに、イベントも数多く開催されるなど、賑わい創出の拠点としても発展しております。

御承知のように、現在、サンポート地区においては、「新県立体育館」や「徳島文理大学」の建設、「JR高松駅ビル」の増築が進められております。

ここに、多島美が素晴らしい瀬戸内海を望むオーシャンビューの世界的な最高級ホテルが新たに建設されることで、サンポート地区は、商業・文化・観光に加え、リゾート性を有するエリアへと発展し、瀬戸内海を活かした、中・四国随一の都市景観を誇るウォーターフロントの形成が期待されます。

現在、本市においては、そのウォーターフロントを生かした魅力的な空間形成など、サンポートエリアにおける将来像を共有するため、「未来ビジョン」の策定に向けた検討を進めております。

私といたしましては、中長期的な視点から、サンポートエリアの更なる機能強化に取り組むとともに、瀬戸の都・高松の顔として、ウォーターフロントのポテンシャルを活かし、より魅力と賑わいのあるサンポート高松となるよう、県と連携し、取り組んでまいりたいと存じます。

【記者】

人事異動による新年度体制に対する抱負について。

【市長】

新年度による人事異動で特別職では加藤副市長は留任ということになり、新たに小柳教育長が就任しました。

そのような形でトップも変わり組織といたしましてもそれぞれの課題に応じたような形で、ある種変更されたというところがございます。

いずれにしてもこのコロナ禍の中ということでございますので、まずはコロナ対策が一部主体になりますし、組織全体として応援部隊なども編成をしながら、対応しているところがございますので、それに集中もしながらも年度が変わって新しい課題といったものを的確にとらえながら、しっかりと仕事をしていただきたいと思いますというところがございます。

【記者】

新型コロナワクチン集団接種のために確保できているファイザー社、モデルナ社製のワクチン数は。

【保健予防課】

予定の枠でございますけれども、まず1点目の取り組みでございますが、こちらにつきましてはモデルナのワクチン予約の空きを活用いたしますので、見込

みといたしましては、お答え致しかねます。

2点目のファイザーの集中集団接種については約540回分、3点目のモデルナの予約なしにつきましては約990回分を想定しております。

【記者】

1日当たりの本数か。

【保健予防課】

延べのトータルの数ということになります。

【記者】

ファイザー社製ワクチンは需要に対して不足気味だがどのように確保したのか。

【市長】

確保といいますか、まず本市の状況でございますけれどもまず1回目、2回目の接種につきましては、約9割の方がファイザー社製ワクチンを接種しています。3回目接種につきましてはこれまでファイザー社製ワクチンが約57%で、モデルナ社製ワクチンが43%ということになっています。

ある程度モデルナ社製ワクチンも接種されているという状況でございます。

全体の配分は大体半々というふうには聞いておりますので、とにかく接種促進というのが一番の目的ですから、そのために、より接種を受ける希望の多いファイザー社製を集中的に接種しようということでございます。

また、モデルナ社製につきましても予約なしで摂取できるということで、補完的に接種しようという合わせ技で、接種促進に努めていこうと考えているものでございます。

【記者】

人の往来が激しくなる時期だが、瀬戸内国際芸術祭期間中の新型コロナウイルス感染者増加に対する懸念は。

【市長】

いずれにしましてもコロナ禍で開催をされる、大規模イベント瀬戸内国際芸術祭2022ということでございますので、感染拡大の防止といったことを最大限に重視しながら対応していかなければならないと思っているところでございます。

それにつきましては対応マニュアル的なものが、実行委員会の本部会でも決められておりますし、島ごとにもここでこういうふうなことをやるという知恵、細かなチェックリストもできておりますので、それに基づいてしっかりと感染防止対策をとっていただきながら、現在の状況で、感染者数が横ばいということであれば、どうにかその辺を注意しながら、開催していく方向であると考えているところでございます。

もちろん何かアクシデントや、状況変化が生じた場合には実行委員会の方で様々な議論をした上でどのように対処していくのか、臨機応変に対応していかなければならないと思っているところでございます。

【記者】

新型コロナウイルスワクチンの集団接種による若者接種率向上の見込みは。

【市長】

基本的に本市の場合には個別接種を主体としながら集団接種を補完的に行って参りましたがけれども、なかなか個別接種には行きにくいという人もおられま

して、集団接種の方がいいという人もいますし、またモデルナ社製ワクチンを敬遠する傾向というのもございます。

人によって色々違うかと思えますけれども、その中で全体として接種率を増やすためにはどうすればよいかということで、隙間的なものやっ払いこうとすることで今回出したのが、この3つの対応策ということでございます。

もちろんそれによって全てが解決するというか、すぐ接種率が上がるというものではないと思っておりますが、今までの体制の中で、ワクチン接種に行きにくかった、集団接種がファイザー社製ワクチンだったら行くのにといった方もおられると思っておりますので、そういう方々にどうにかワクチン接種の機会を提供したいという考え方で今回3つのパターンで、ワクチン接種の促進案を出させていただいたということでございます。

【記者】

ファイザー社製を使うのは、若者の副反応への懸念を配慮してか。

【市長】

そうですねだから、先ほども言いましたように集団接種について、これまではモデルナでずっとやって参りましたけれども、集団接種がファイザー社製ワクチンであれば接種したいという方も少なからずいらっしゃるのではないかとということで、こういう枠を設定したということでございます。

【記者】

新型コロナウイルス感染者が増加した場合、瀬戸内国際芸術祭の開催を継続する判断は。

【市長】

いずれにしても感染状況というものは様々な指標を見ながら総合的に判断し

ていかなければならないと思っています。

従いまして新規感染者数だけが目立って取り上げられていますけれども、それだけで判断するということにはならないと思っています。

一日二日、感染者数が上がったからといって、どうするのかという話ではなく、やはり中長期的な全体傾向として見ていかなければならないと思いますし、先ほども少しふれましたけれども、新たな変異株が出てきた場合にはどう対処していくのかといったようなことも考えていかなければならないと思います。

また医療機関でよく言われるように病床使用率でありますとか、或いは重症化率でありますとか、その辺が特に重要になってこようかと思っていますので、特にその辺の状況を総合的に判断した上で、県知事が会長である実行委員会で判断をして、最終的にアナウンスするということになろうかと思っています。

【記者】

高松市民への新型コロナウイルス感染防止の呼びかけについて。

【市長】

今回このような3つの取り組みをさせていただいておりますけれども、オミクロン株の感染力が非常に強いということで、いわゆる第6波につきましては、なかなか収束の目途が立たずに、感染者数についても高止まりで、横ばいといったような状況が続いているところでございます。

特に家庭内感染が非常に多くなってきているということで、それは感染力の強さに影響するものであると思っておりますが、なかなか難しいところです。家庭内においても、例えばマスクをきちんとつける、お互いに使用するタオルなどを別ける、家具等についても接触部に気をつけ、接触による感染が起こらないように気をつけるなど、そのような形で予防に努め、体調が悪いときには、できるだけ学校や職場に登校或いは出勤を控えていただくとか、そういう日常的な感染防止対策に十分に気をつけていただいでどうにか危機を、市民の皆様の御協力のもとに乗り切っていきたいと思っております。

軽症で済んでいるからといって、油断せずその辺十分に気をつけていただいで、基本的な感染防止対策の徹底、マスクの着用から手洗いの励行、或いは人と人との距離をとる、こまめな換気といったようなことをお願いいたします。

もう口を酸っぱくして、言っていることではございますけれども、そのようなことに十分に気をつけていながら、日常生活を過ごしていただきたいということでお願いを致したいと思います。

一方でそういう基本的な対策の徹底を図りながら、社会経済を維持、或いは活性化していくことも必要かと思っておりますので、その辺の対策を十分踏まえた

上で、日常生活を送っていただきたいと思います。

また、瀬戸内国際芸術祭等々もございますけれども、感染には十分気をつけていただいて、お楽しみをいただければと思っているところでございます。

【記者】

集団接種での積極的なワクチン接種のお願いについて。

【市長】

モデルナ社製ワクチンは副反応が強く、敬遠されているという傾向が確かにあるわけでございますけれども、その有効性や安全性というのは証明されていますので、それにつきましてはできるだけ、ご自身で判断をしていただきたいと思います。

またこの度、いろいろな接種機会を用意させていただきましたので、自分ならこれが一番合っているなとか、或いはこれから打ってみようかということを選択していただいて、積極的なワクチン接種の検討をしていただくようお願いをしたいと思います。

【記者】

コロナ禍で開催される瀬戸内国際芸術祭の意義や楽しみ方について。

【市長】

瀬戸内国際芸術祭につきましては2010年に第1回が開かれて、3年ごとに開催してきているわけでございます。

特に前回の2019年には、来場者が過去最高の2118万人ということで、しかもそのうち外国人の来場者が24%を占めたということで、国内外に大きくアピールした一大イベントとなったということでございます。

その後、コロナ禍が起こって、今回はそのような中での開催ということになりますけれども、芸術祭の意義といたしますか、瀬戸内海の海の復権と、過疎に悩む各離島の高齢者の元気を取り戻したい、笑顔を見たいといったような意義目的というのは変わってないわけでごさいますし、引き続きどうにかこの2022も、コロナ禍の中での、相当大きな制約があるわけでごさいますし、特にインバウンドという意味ではほとんど今回は見込めないかと思っています。

その分国内の皆様方に、来ていただきながら、もちろん移動を伴いますので、感染拡大等には十分にご注意をいただくということになりますけれども、その上で、瀬戸内海の美しい景色と、離島のゆったりした空間、それに、現代アートが組み合わせられた、非常にユニークな芸術祭である瀬戸内国際芸術祭にぜひ多くの方においでをいただき、シーズンを通じて楽しんでいただきたいと思います。いるところでごさいます。